

高校併願入試Ⅰ・Ⅱを終えて

1月22、23日高校入試を無事終了することができました。ありがとうございました。

大変寒い中、500名（高入生名・中入生名）の実受験者という昨年度より100名以上多く受験生をお迎えできたことは、これからの城北埼玉へのご期待と受け止め、そのご期待に応えることができる学校へ更なる成長を遂げたいと感じております。入試結果に関する詳細は本校ホームページ上で掲載させて頂いております。加えて各教科主任からの講評も記載しております。受験生の皆さんのお役に立てて頂ければ幸いです。

本校の入試は幕となりましたが、受験生の皆さんの未来にはまだまだ多くの可能性が秘められていると存じます。今回の結果を糧に、大きな飛躍を遂げられることを、ただただお祈り申し上げます。

城北埼玉中学・高等学校

校長

森泉秀雄

高校入試 国語

【併願Ⅰ】

1 「人生はパイナップル」

○問1について

設問文中の条件はほとんどの場合、正解への手がかりになっています。出題者が正解に導こうとしています。問1に関しては、「『～が、』『～のに』」などの逆説の接続語を用いながら・・・という設問条件がそれにあたります。

「ぼく」は(さほど偏差値の高くない)甲子園常連の商業高校に進学したかったのに、「成績が下がった者は試合に出さない」という野球部の顧問教師の宣言から、必死で勉強しているうちに志望校以上の成績になってしまいました。そして成績があがってしまったことによって志望校を決める際に両親から反対されるはめになりました。ぼくの思惑が外れてしまったわけです。作者はそのことを「一生の不覚」と表現しています。

逆説の接続語を用いていない解答は、この「思惑が外れてしまった」ことを説明できていませんでした。

2 知識問題

○問1 漢字について

「台頭(たいとう)」を「だいとう」、「惜敗(せきはい)」を「ざんぱい」、「体裁(ていさい)」を「たいさい」とする誤答が少なくありませんでした。普段から「言葉」を大切にしましょう。

○問4 文学史について

作品名の表記に誤りがありました。関連するⅡ・Ⅲを全員正解といたしました。お詫びいたします。

3 「言葉の力」

大岡信氏の文章は、いまだ多くの教科書に載るとともに、高校入試・大学入試においても実によく出題される名文です。

○問1は「問題は紛糾していないのに野望が紛糾している」が、どのようなことをたとえているかを「素晴らしい言葉」「あたりまえの日常」「特別な言葉」の三語を使って説明する問題でした。ここで言う「野望」とは、すぐれた詩を書くためにはすぐれた言葉が必要であり、自分以外のどこかにあるはずのすぐれた言葉を手にしようということです。そして筆者がそのことに触れているのは、本文の冒頭です。

「(言葉を大切にしようというが、その大事な)素晴らしい言葉というのは、実はそのへんにごろごろ転がっているあたりまえの日常の言葉なんだ」「どこか別の場所に、誰が見ても素晴らしい特別な言葉があって、(言葉を大切にすると)いうことが、その言葉を)大事にすることであるならば、こんなに簡単な話はない」

設問では、この箇所を上手にまとめることを求めました。「語彙」「宝庫」「紛糾」といった言葉の意味がわからなかった場合は、かなり難しく感じたかもしれません。

【併願Ⅱ】

1 「代筆屋」

○問2・3について(3教科・5教科共通)

「広信(ひろのぶ)」と書くべきところを「広重」と書いてある解答が実にたくさんありました。採点者一同、「?」と思いながら採点していて、一人がハッと気づきました。「安藤広重(あんどうひろしげ)?」!

たぶん、思い込みから起こった誤字かと思われます。

2 知識問題

まんべんなく得点できていました。

3 「いまを生きるための教室『〈自由な社会〉における責任』」

○問7について(3教科のみ)

「イ、他者に影響を及ぼしてまで個人の自由を追求することは許されないことである。」は、本文を離れて考えてみれば、当然のこととして受け取れますが、筆者は本文の中で、「諸個人に自由な活動を許した場合、そこに生じた競争によって貧富の差に代表される不平等が広がっていくのが通例である」と述べています。その上で、「自由を与えた後には、平等を無理に実現するための介入をできるだけ避けようとするのが自由主義である」と続けています。つまり、「個人の自由・他者との競争を許す社会においては、他者に不平等という影響を与えざるをえない=競争することによって生じる格差や不平等には目をつぶらざるをえない」というわけです。

筆者は本文において、そのことの是非を論じているわけではなく、あくまでも〈自由な社会〉というものとは何かを論じているのです。

4 古文(5教科のみ)

○城北埼玉高等学校の入学試験で古文をはじめて出題しました。県立高校の試験を参考にして、ほぼ同じ形式・同じレベルにしたつもりです。その上で採点してみても感想を述べます。まず、出来は総じてよくありませんでした。問1は、語注にさえ目が行けば解答することはできたと思います(わざとそのように作問しました)。また、問2は15頁と照らし合わせればやはり解答できたと思います(これもわざとそう作問しました)。問3の出来もあまりよくありませんでした。古文で得点差が開きました。

5 小論文(5教科のみ)

○まず第一に、ほぼすべての受験生が制限時間内にしっかりと書けていたことに採点者一同とても驚きました。採点基準については、問題冊子にある通りです。「段落や構成に注意して」に関しては、あらかじめ「起承転結」もしくは「序破急」などの構成を身につけて試験に臨んだ人が多かったように感じました。「自分の体験をふまえて」に関しては、本文に含めることが難しかった人もいました。「見たこと聞いたことなども含む」としましたので、新聞やテレビのニュースから得た知識を引用することも出来たはずですが、それを差し引いても、全体としてよく出来ていたと思います。

☆ 受験生の皆さん、お疲れさまでした。寒い中を体調がすぐれないにも関わらず、懸命に受験してくれた人もいました。

4月初め、城北埼玉高等学校の正門付近の桜の花が満開となります。その満開の桜の下で、皆さんと笑顔でお会いすることを心から楽しみにしています。

国語科主任 高橋浩一郎

高校入試 数学

【併願 I】

- 1 (1)はあまり正答率が高くありませんでした。高校の数学でも文字式を正しく計算する力は重要です。しっかり復習をしてください。(6)②は頂点とOと球と側面、底面のそれぞれの接点を通る平面での切断面を考えます。(7)②は中央の数を n として、4 隅の数を n を用いて表して立式し、計算すると $28n$ となり、中央の数の 28 倍であることが示せます。立式と計算の過程が正しく書けている解答は正解としています。
- 2 (1)の作図はあまりできていませんでした。直線 AC に平行で頂点 D を通る直線、または直線 BD に平行で頂点 A を通る直線のいずれかを作図する問題でした。平行線の作図の方法は「垂線を 2 回とる方法」、「ひし形を作る方法」などが考えられます。
(2)①の式は立っていましたが、それ解くことは係数が大きかったために難しかったようです。②の正答率は低いものとなりました。
- 3 (1)、(2)は良くできていました。(3)については線分 OA の中点を通る直線を求めてしまっている者が多く見かけられました。求める直線と OA の交点を P とすると、 $\triangle OBC = \frac{3}{2}$ だから $\triangle OBP = \frac{3}{2}$ 、 $\triangle ABP = 3$ となるので、 $OP:PA = 1:2$ です。
- 4 (1)の証明は良くできていましたが、(2)で不正解となり、(3)まで届かなかった者が多かったです。
(2)は条件から $AE = 1\text{cm}$ 、 $EB = 3\text{cm}$ 、また、 $CE:ED = 3:5$ から $CE = 3k$ 、 $ED = 5k$ とおくことで、相似比から k の値が求まります。
- 5 (1)から思ったよりもできていませんでした。 $AE = x\text{ cm}$ とおくと、 $BE = 18 - x\text{ cm}$ です。折り返したとき、B と D が重なるので、 $DE = BE$ となり、 $\triangle ADE$ について三平方の定理から x についての方程式を立てます。
(2)は 2 つの円錐の体積の和を考えます。EC の長さの前に辺 BC の長さが求まります。D から辺 BC に垂線を下した点を H として、 $\triangle CDH$ から $CD (= BC)$ の長さを求めます。

【併願Ⅱ】

県立高校学校選択問題を参考に併願Ⅰと同じ程度の問題のセットで出題をしました。3教科型、5教科型共通問題です。

- (1)~(6)は基本的な問題でしたが、(5)は正答率が低く5教科型の受験者の正答率で19%程度でした。(7)①は半数程度が完答できていました。②はYに入る正の約数が3つもつもの形が思いつかなかったようで、完答率は9%程度でした。
- 作図は併願Ⅰより典型的な内容だったためか良くできていたと思います。(2)も正しく数えることができていました。
- オーソドックスな放物線と直線の問題です。(1)は非常に出来が良かったのですが、(2)は①②ともに3割程度のできてした。 $P(a, a^2)$ から $Q(a, -2a+8)$ 、 $S(-a, a^2)$ だから $R(-a, -2a+8)$ です。
このことから、①は直線 $y = -4x$ に R の座標を代入します。② $SP=PQ$ から a の方程式を立てます。
- (1)の正三角形であることの証明は2角が 60° であることを示せばいいのですが、条件から直ちに示されない事柄を根拠とするような証明が少なくありませんでした。論理が飛躍しすぎないように丁寧な証明を心がけましょう。
(2) 四角形 $ABCD =$ 四角形 $EFGD = \triangle FGH +$ 四角形 $FHCD$ とすると、 $\triangle AHE$ との比で簡単に表すことができます。面積比は相似比の2乗の比であることに注意が必要です。
- 大問4に続き比の問題です。(1)基本的な線分の比を問う問題でしたが、正答率が3割程度でした。県立本番までにしっかり復習しておきたいところです。(3)は(2)を底辺として高さを求めてもよいのですが、 $CT:TP=3:4$ であることが導ければ、(2)が求まっていなくても、正四面体 $OABC$ に対する体積の比を求めること解決することができます。

最後に

大問Ⅰは基本的な問題を多く出題しました。間違えた問題については要復習です。公立高校の受験日までしっかり復習をしましょう。本校の受験を通して今後の学習面での課題が見えたかと思います。今後はそれらの課題を克服するよう勉強に励んでください。受験生の皆様の健闘を祈っております。ご縁があり本校に入学する皆様については4月に再会できることを楽しみにしています。

数学科主任 池上雅史

高校入試 社会

<地理分野>

世界地理、日本地理の両分野において基礎的な用語等が理解できているか、図やグラフを読み取り解答ができているか等に焦点をあてて作問をしました。また、論述の問題ではリアス海岸のでき方と特徴を答える問題で地形の特徴等を理解できるのかを問いました。

単語を答える問題や図やグラフを読み取るなどの問題は全体的にできていました。基礎学力が身につけている受験生が多いと感じました。一方、記述で答える問題はあまり正答率が良くなく、記述で答えるということに慣れていない受験生が多かったのではないかと感じました。今後、問われる可能性が高い出題の仕方なので対策をしっかりとしてください。

<歴史分野>

教科書で学ぶ天皇と、近現代の年表を題材に、各時代の特徴を出題しました。歴史的事象がどの時代の、どのような歴史の経緯で生じたものなのかを把握できているかを重視しました。受験生はしっかりと準備をして臨めていたようです。いっぽうで、論述問題では正しい言葉で解答できていない答案が目立ちました。論述問題を実際に解いて終わりにせず、それを学校の先生などに添削してもらおうと、よりよい答案を作成できるようになります。

<公民分野>

昨年、国内外で話題となったテーマに関する出題でした。実施開始から 10 周年を迎えた裁判員制度に関する問題など、日ごろからニュースをチェックしている受験生が多かったようで正答率も高くなりました。問 2 の三権分立に関する出題では、弾劾裁判や違憲審査権の誤答や誤字が多く見受けられました。三権分立は過去問題でも複数回出題されているので、自分の言葉で正確に説明できるよう学習しましょう。

<三分野融合問題>

昨年開催されたラグビーワールドカップの試合会場となった都道府県に関する出題でした。身近な話題と学習したことを結び付けることを意識しましょう。問 3 は元号「令和」が『万葉集』から引用されたことをうけた出題でしたが、公民分野同様にニュースの確認がよくできている受験生が多く、正答率も高くなりました。

本校入学試験は埼玉県公立高校入試を参考に作成しましたが、問題用紙の表紙注意事項にもあるように、正確に漢字で表記できたものを得点対象としました。次年度以降の入試でも同様の採点基準ですので、日ごろから文字の記載、意味を理解した語句の利用を心がけましょう。

社会科主任 高橋寿拓

高校入試 理科

- 1 小問集合問題でした。物理分野の問題の正答率が少し低かった以外は、皆さんよくできていました。受験生の皆さんの基礎学力の高さがわかりました。
- 2 太陽の動きを調べる観察結果のデータを読み解く問題でした。
問1、問2では太陽の方位は影の方位に対して 180° 反対方向であることに注意して考えます。
問5では図4を利用して求めた棒の影の長さをもとにして、与えられたデータから影の方位を求めることによって太陽のある方向がわかります。
問6では、日没の頃に「太陽高度」が小さくなることによって「棒の長さ」どのように変化していくのかを考えます。
- 3 生物分野の遺伝に関する問題でした。メンデルの遺伝の実験は、当時全く解明されていなかった遺伝のしくみをすっきりと説明することができたという点で、非常に優れたものでした。ですから、この実験の内容を学習することは生物学に親しむためのよい入り口となるでしょう。受験生の皆さんはメンデルの実験についてよく理解しているようで、非常に高い正答率となりました。
- 4 化学分野の中学2年生で学習した質量保存の法則に関する実験の問題でした。実験1は、石灰石(炭酸カルシウム)と発生した二酸化炭素の量の関係をグラフを作成して考える問題でした。過不足なく反応する点をしっかり考え、グラフがしっかりとかけているものが多くいました。
実験2は、硫酸と水酸化バリウムとの反応でした。この実験は、気体が発生しないため、反応前の質量と2つの溶液のを混ぜた反応後の質量に変化がないことがポイントでした。とてもよくできていたと思います。
化学分野は、気体の発生や化学反応の前と後での質量の関係を考える実験が多く出題されます。その辺をしっかりと復習しておいてください。
- 5 物体を沈めたときの水位の動きと浮力に関する問題でした。どの問いも説明文を正確に読み取り、イメージをする必要があります。「1cm 物体を下げると水位が1cm 上がる。」という説明分から「1cm 下げると2cm 沈む」、「容器の底面積は、物体の底面積の2倍ある」という視点を持たせたかが重要でした。また、浮力が発生しても、物体にかかる重力は常に一定。浮力の大きさは、水深ではなく、物体の沈んだ部分の体積の大きさによって変わる。この2つをそれぞれの状況に当てはめられることも求められていました。複雑な問題ほど、知識や計算だけでは上手く解けません。イメージを持ちつつ、それらを使いながら、絡まりを1つ1つ紐解いていく。忍耐力・想像力を鍛えていきましょう。

理科主任 中野雄一

高校入試 英語

【併願Ⅰ】

英語Ⅰ（3教科型）

1

問1 全体によくできていた。

問2 概ね高い正答率だった。

(a) 現在完了形 have(has) + 過去分詞.were、are の間違いが目立った。

(b) 前置詞 + 名詞(名詞は動名詞に) waiting の間違いが目立った。

(c) 時制の一致。主節が過去形で、従属節も過去形にする。

問3 as~as one can と as~as possible の表現が未定着で双方が混じっていたり、主語・時制が正しく使えていない誤りが多かった。could を can とする間違いが多かった。

問4 全体にできていた。

問5 不定詞の名使用法ととった間違いが目立った。stop to talk~の不定詞の用法が理解できていない解答が多く見られた。

2

問1 not most people を「他の人々とは違う」と読んだ上で選択肢を判別する必要があったが、ア、イ、の誤答が多かった。

問2 本文中から抜き出す問題だが、誤答が多かった。不正解が多かった。teach の文型について、teach A to be B「AにBになるように教えるという意味になる。()の後の-の働きを覚えて欲しい。これはダッシュと言って、前の部分の説明となる。このような活動をするのは「科学者」である。

問3 for ではなく at で解答しているものが多かった。look for: 探す look at: 見る

問6 アの誤答が多かったが、He made sure to take only one egg.の箇所が正確に読み取れていなかった。

3

[概観]

高齢者の労働についてというテーマであり、本文の単語レベルはやや高いが注釈があり2項対立が比較的に見やすい文章であった。unlike や on the contrary など対比を表す表現が見られるのでこういった表現をおさえ問題を解きながら賛成・反対を整理するスキルが求められる。

[各問への講評]

問1・3・6は前後の対比を問う問題であった。同段落内または同文内での+-（プラスマイナス）の対比が読み手として構えられているかどうか問われている。

問1[選択]:下線部①” can work as many years as they like” の内容に最も近いものを選び。

unlike(～とは違って)を頼りに文章内容の比較を行っていく問題である。そしてさらに下線部・選択肢自体も和訳は平易であるので、さほど難しくない。

問3[単答]:下線部③” oppose” と反対の意味で使われている1語を同段落より抜き出せ。

”Some people oppose ADEA, and some support the law” と比較対象が直後にあるので比較が非常に見やすい。ゆえに正答率は高めであった。

問6[記述]:下線部⑤” What do you think?” に対して反対の立場と仮定し、その理由を1つ書け。

最終段落は下線部③が引かれている文が2項対立を明確に表しており、その後大きく反対の内容が述べられ、on

the contrary(反対に・対して)を境に賛成の内容が述べられている。この構造が見抜けていれば、ほぼ和訳問題である。

問2[単答]:4か所ある空所に共通して入る1語を同段落から抜き出せ。

関係代名詞の who をあてはめる問題であった。選択肢ではなく適語補充の形であるが、全て関係詞の形で聞いているのでどこかの空所で関係詞の問題であることに気づきたい。

問4[単答]:下線部④” is” の主語を1語で答えさせなさい。

下線部④が含まれている文は”(On the contrary, those who oppose it say since)the number of people who choose to stay on their job after the traditional retirement age is small.” である。本問は下線部動詞の主語を聞いている問題であるが、間接的には” a number of” と” the number of” の違いを聞いている。この知識に加え、SVの間に関係詞が入っていることにより文型構造を複雑にみせている。正答は少なく、最も多い誤答は” people” であった。しかし people が主語であれば、be 動詞は is を取らない。難しくはあるが良問である。

問5[記号選択]:次の文を入れるのもっとも適切なものを入れなさい。

あてはめるべき文に” why” が含まれており、位置を特定するのは比較的容易であった。

問7[記号選択]:本文の内容と一致するものを選べ。

ADEA や Barbara Walters など固有名詞が含まれている選択肢が多く、文章内から探し正誤を判定するのは容易なはずだが、誤答が多かった。先に選択肢に目を通し、問われている固有名詞をマークしながら読むスタイルができているとリーディングの効率があがる。

4

1 関係詞を用いた就職関係が捉えられているものが少なかった。修飾節を含む主語部分の後の is が見つけられないものが多かったと見られる。

2 正答率が高かった。受動態の基本的な問題だった。

3 正答率が高かった。enjoy + 動名詞の形が理解できているかどうか。

4 正答率はやや低かった。文の意味を捉えながら、つながるものを探す必要があった。

5

全体としてやや易。

5 to me の誤りが多かった。

6

易。

5 誤りが多かった。否定文の付加疑問文。

【併願Ⅱ】

英語Ⅱ（3教科型）

1

問1 ほとんどの者が間違えた。

問2、3、4 出来が良かった。

問5 日本語がおかしくて、誰が何をしたのか不明確な答えが多かった。

2

問1 基本的な前置詞を入れる問題だが、正答率が低かった。

問3 文章整序の問題だが、代名詞などの指示語がきちんと読み取れず、誤答が目立った。

問5 前の文の I wondered if they would sing…から正答が導けるはずだが、文脈を読み間違え「歌う」という解答が散見された。

3

[概観]

乱れた食習慣が引き起こす危険がテーマの長文であった。設問に英文の構造に着目させる問題が目立つ大問である。一(ダッシュ)の役割、接続詞の使われ方、段落の順番などを理解しているかなどの英語の文章そのものの構造理解を問うマクロな問題と1文内の語形変化を問うミクロな問題がバランスよく配置されている。

問1[語形変化]:下線部①” bad” を適切な形に直しなさい。

後ろに than があるので、bad の比較級をあてはめればよい。bad→worse の不規則変化が頭に入っておらず、badder などの誤答が多くみられた。下線部を含む形容詞句が後置修飾を行うというあまり見慣れない構造だが、than が直後にあり、聞いていることはシンプルなので解く際の妨げにはあまりならないだろう。

問2[記述]:下線部②” preventable diseases” とはどのような病気か。日本語で答えよ。

英語の文章がどのような構造になっているか理解しているのかを間接的に問う問題である。下線部は” preventable” という難しめの単語が含まれているが、後ろに一(ダッシュ)があるため、以降補足、易しい言い換えが続き、具体例が来るというよくある構造を意識していればどこを探すかは明確だろう。多く見られたのは解答としているダッシュ直後” diseases that don’ t have to happen, but come about because of the choices someone makes.” (★)ではなく、後ろの具体例(タバコ)を持ってきた解答が多かった。この” preventable disease” は煙草に関する病気だけを指しているものではないので、減点とした。また、一般論である部分(★)を持ってきた解答ももちろん多かったが後半部分(but 以降)にしか言及されていないものがおおかった。but は等位接続詞なので、don’ t have to happen と等しく結ばれ、どちらも関係代名詞の that 節の中に含まれているので、「don’ t have to happen だが come about because of the choices someone makes である病気」を指している。ここを丁寧に和訳する必要があった。

問3[単答]:下線部③” can affect” の主語を1語で答えなさい。

助動詞の can が下線部に含まれているため、主語の単複などがヒントにならない点がやや難度を上げている。多い誤答は” they” 、” people” であった。people は直後に make という動詞があり、they の後ろにも eat があるため、can affect の主語になるとは考えられない。ゆえに、” choices” が正解である。関係詞の中に when 節が入っているため構造としては見にくいだが、ひとつひとつの節がどこまで続いているのかを確認すればよい。

問4[記号選択]:空所4に入れるのに最も適当なものを選べ

長文中の空欄補充だが、問われているのは4択文法問題のような知識である。(4)以降が that affected their health となっており、that (S’) affected(V’) their health(O’)と文型が完成しているため、副詞扱いである how が正解となる。前半に what の節があるのでそちらに引っ張られ、「ア、what」とする誤答が多かった。

問 5[語形変化]:下線部⑤” be” を適切な形に直しなさい

非常に易しい問題で誤答は少なかった。

問 6[段落補充]:次の段落をいれるのに適切な場所を選べ。

一文目に決め手がある。単語としては” the opposite” だが問2同様、ダッシュ以降に補足説明がある。” they’ re eating too much.” と反対の意味を述べている段落を探せばよい。正答率は高めであった。

問 7[内容正誤・選択]:本文の内容と一致するものを選べ。

エとする誤答が多かった。「世界の人々は野菜や果物を多く食べ」という部分だけを読み印象だけで選択してしまった人が多いように思われる。必ず選択肢は最後まで目を通し、正誤を判別する必要がある。

4

1 正答率が高かった。more の位置を間違えるものが見られた。

2 [one of them]という主語を作れるかどうかポイント。them=the reasons

3 It is 形容詞 + to 不定詞の構文が作れるかどうかポイント。that 節をとると、文が成立しない。It is important that~の誤答が多かった。

4 正答率が高かった。現在完了形と try to~を作れば正解にたどり着く。

5

全体として正答率が高かったが、大文字・小文字のミスも見られた。

1 are を is とするものが見られた。

2 正答率が高かった。

3 主語が複数となるのに、get とせず gets のままのものが見られた。

5 be born (生まれる) の表現が出てこなかったものが見られた。

6

全体として正答率が高かった。

英語Ⅱ（5教科型）

1

リスニング問題

全体として正答率が高かった。

No.5 fiftyとfifteenの聞き取り間違いが多く見られた。

2

A B 月と曜日の綴りが未定着の生徒が一定数見られた。

C 見出しなどで見られる「名詞+(過去)分詞」の表現は正答率が低かった。ボランティアが「求めている」側なのか、「求められている」側なのかを正しく捉えれば、正答できた。

3

問2 誤答が多かった。didn'tの後に動詞が来ることを忘れてはいけない。語群の中ではrecycleが動詞になる。主語は前文のSomeと対応するOthersである。

問5 「捨てられたゴミがある」はわかっても、「それを食べてしまうことが死につながる」というポイントが落ちている解答が多い。

4

問3 並べ替えは、I am often to spoken(不定詞との混同)や、I often am spoken to(副詞の位置・一般動詞の前・Be動詞の後)のミスが見られた。

問4 喜多院へ一緒に行ったことが書かれていない解答が散見された。

問5 否定文に対する同意だが、IのI have、too.を選んだものが多かった。

問7 大文字小文字の区別や、綴りの間違いは減点した。

問8 前の問題と混同する誤りや、外国人と日本人の主語が明確でない答案が多かった。

5

英作

全体によく書けていた。単数・複数のミスが多く見られた。abroadを名刺で使っている生徒が多かった。

英語科 矢野豊